

II. 価値創造ストーリー

私たちの使命 11

成長のあゆみ 14

培ってきた強み 16

価値創造プロセス 18

私たちの使命

「企業理念・私たちの役割」が、NEXCO中日本グループの価値創造の原点です。

NEXCO中日本グループは、「企業理念・私たちの役割」に示された精神を起点に、「私たちの基本姿勢」、「安全性向上への5つの取り組み方針」を定め、社会インフラを担う企業として、お客さまの安全と安心を最優先に日々の事業活動に取り組んでいます。

2026年度から、新しい経営計画「チャレンジV 2026-2030」がスタートしました。私たちは、常に安全を最優先とする精神を基盤に、ステークホルダーの皆さまにお届けする価値の向上に努め、社会課題の解決を実現します。

企業理念・私たちの役割

私たちは、安全を何よりも優先し、安心・快適な高速道路空間を24時間365日お届けするとともに、高速道路ネットワークの効果を、次世代に繋がる新たな価値へ拡げることにより、地域の活性化と暮らしの向上、日本の社会・経済の成長、世界の持続可能な発展に貢献し続けます。

私たちの基本姿勢

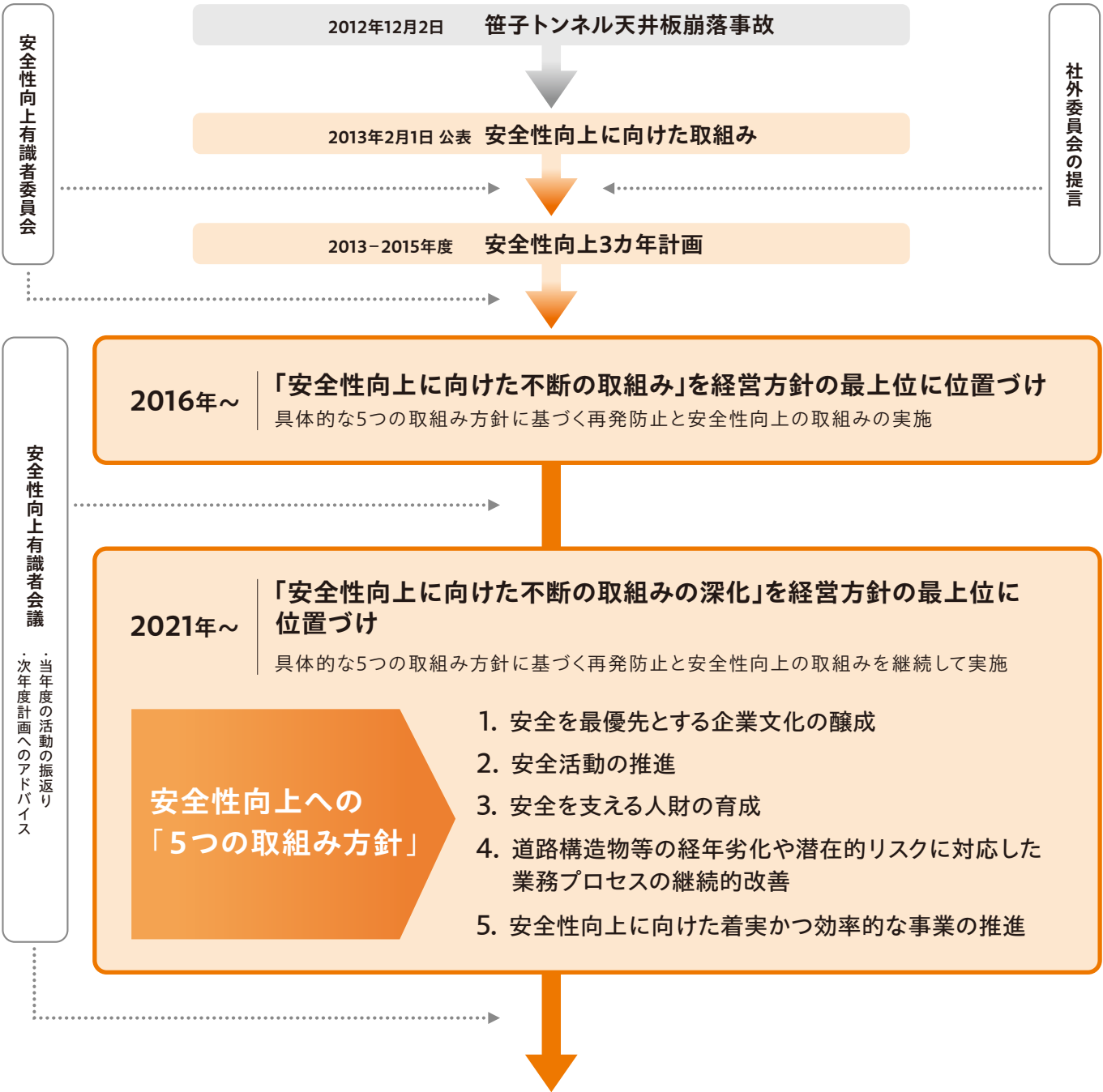
私たちは、コミュニケーションを大切に、「6つの基本姿勢」の実践を通じて、ステークホルダーの皆さまの期待に応えます。

6つの基本姿勢

- | | |
|----------------|--------------|
| ① お客さま起点で考える | ④ 生産性を高める |
| ② 現場に立って考え行動する | ⑤ 変革を続ける |
| ③ 経験と知見を結集する | ⑥ 社会の課題と向き合う |

安全性向上への「5つの取組み方針」

私たちは笹子トンネル天井板崩落事故を決して忘れず、お客さまに安全な高速道路空間を提供し続けることこそ最大の使命であるとの強い決意のもと、安全性向上への「5つの取組み方針」に基づく不断の取組みを、PDCAサイクルを着実に実践しながら深化させています。



PDCAサイクルを着実に回しながら取組みを継続実施

笹子トンネル天井板崩落事故について

2012年12月2日、当社の管理する中央自動車道 笹子トンネル(上り線)における天井板崩落事故により、9名もの尊い命が失われ、多くの方が被害に遭われました。

お亡くなりになられた皆さま、ご遺族の皆さまに対して、深くお詫び申し上げますとともに、お亡くなりになられた皆さまのご冥福を心からお祈りいたします。

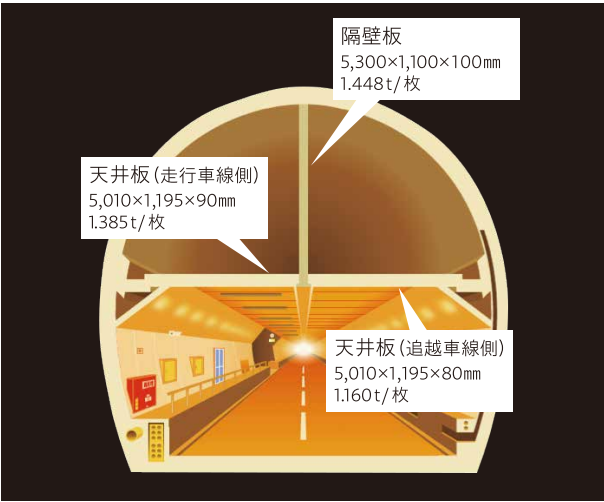
また、事故によってお怪我をされた皆さまや、ご迷惑をおかけした皆さまに心からお詫び申し上げます。

私たちは、事故を引き起こした責任を重く受け止め「二度とこのような事故を起こしてはならない」という深い反省と強い決意のもと、ご遺族の皆さま、被害に遭われた皆さまに真摯に対応するとともに、グループを挙げて、安全文化の醸成、潜在的リスクへの対応、安全を長期的に確保していくためのハード面の施策など、高速道路の安全性向上という永遠の挑戦課題に取り組んでいきます。

■ 発生日時	2012年(平成24年)12月2日 日曜日 午前8時03分
■ 発生場所	中央自動車道 笹子トンネル(上り線)内(延長4.8km、大月JCT～勝沼IC間)
■ 事故概要	笹子トンネル(上り線)の東京側坑口から約1.5km付近で、トンネル内の換気のために設置されていた天井板及び隔壁板などが約138mにわたり崩落し、走行中の車両3台が下敷きとなり、うち2台から火災が発生しました。



位置図



トンネル概要図

当社は、笹子トンネル天井板崩落事故後直ちに安全に関する現状認識と問題点について幅広く検証を行い、再発防止に向けた取組み方針をまとめた「安全性向上に向けた取組み」を2013年2月1日に公表し、国の「トンネル天井板の落下事故に関する調査・検討委員会」報告書や外部有識者の意見も踏まえて策定した「安全性向上3カ年計画」(2013-2015年度)、「安全性向上への『5つの取組み方針』」(2016年度～)に基づき、グループを挙げて再発防止と安全性の向上に取り組んできました。

「経営計画チャレンジV 2026-2030」においても引き続き「安全性向上に向けた不断の取組みの深化」を経営方針の最上位に位置付け、笹子トンネル天井板崩落事故を決して忘れず、お客さまに安全な高速道路空間を提供し続けることこそ、最大の使命であるとの強い決意のもと、「安全性向上への『5つの取組み方針』」に基づく不断の取組みを、PDCAサイクルを着実に実践しながら深化させていきます。

成長のあゆみ

NEXCO中日本は、日本道路公団の分割民営化により2005年10月に誕生しました。
社会や高速道路を取り巻く環境が変化する中で、安全を最優先に、高速道路の建設から維持管理、サービスの向上に取り組んできました。
これまでのあゆみの中で培われた技術・経験の積み重ねが、現在のNEXCO中日本における価値創造の基盤となっています。

民営化と事業基盤の整備

- 2005年10月 ● 中日本高速道路株式会社設立 (日本道路公団民営化)
- 2006年 3月 ● E42紀勢道 (勢和多気JCT～大宮大台IC)の開通 ※民営化後初の開通
- 2007年 4月 ● 高速道路総合技術研究所 設立
- 2008年 7月 ● E41東海北陸道の全線開通 (飛騨清見IC～白川郷IC)



2005年 中日本高速道路株式会社設立

サービス向上と広域ネットワークの整備

- 2010年 9月 ● EXPASA御在所オープン (EXPASAブランド初)
- 2011年 9月 ● 日本高速道路インターナショナル設立
- 2012年 4月 ● E1A新東名 (御殿場JCT～三ヶ日JCT) 開通
4月 ● NEOPASAが7カ所オープン

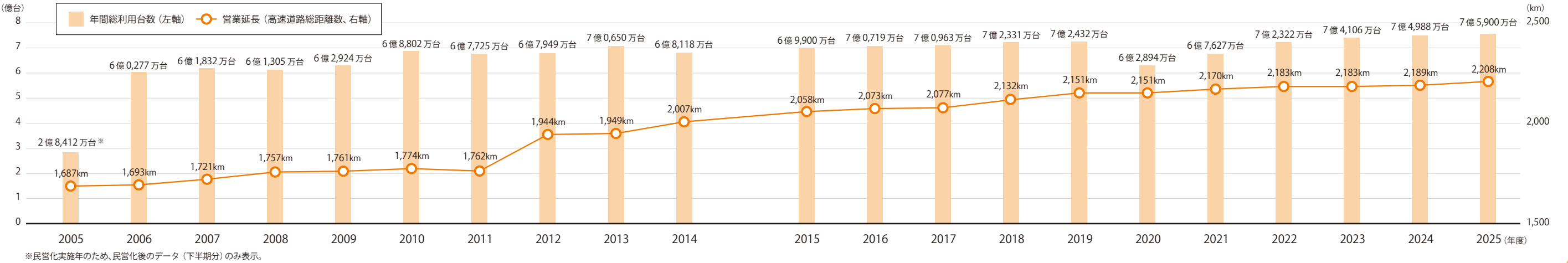


2012年 新東名 (御殿場JCT～三ヶ日JCT) 開通



2012年 NEOPASA駿河湾沼津オープン

■ NEXCO中日本が管理する高速道路



事業領域の拡大と安全文化の定着

安全性向上の取組みと インフラ老朽化対策の本格化

- 2012年12月 ● 笹子トンネル天井板崩落事故発生
- 2013年 2月 ● 「安全性向上への取組み」の公表
7月 ● 「安全性向上3カ年計画」の策定
- 2014年 7月 ● 橋梁等の道路構造物に関わる省令点検の義務化
7月 ● E27舞鶴若狭道の全線開通 (小浜IC～敦賀JCT)
- 2015年 3月 ● C4圏央道 (寒川北IC～海老名JCT) の開通
4月 ● 複合商業施設「テラスゲート土岐」開業
7月 ● E1名神全線開通50周年
- 2016年 2月 ● E1A 新東名 (浜松いなさJCT～豊田東JCT) 開通
4月 ● 安全性向上への「5つの取組み方針」の策定
5月 ● 高速道路リニューアルプロジェクトに本格着手
- 2017年 6月 ● 熊本地震を踏まえた耐震補強工事に本格着手



2014年 橋梁等の道路構造物に関わる省令点検の義務化



2016年 高速道路リニューアルプロジェクト本格着手



2019年 新名神 (新四日市JCT～亀山西JCT) の開通

培ってきた強み

私たちの持つ資本は、高速道路の安全・安心を支える技術力、広域ネットワークの建設・管理で培ったノウハウ、そして地域や社会との強い信頼関係といった“高速道路会社ならではの強み”として結実しています。これらの資本をもとに、お客さまをはじめとする多様なステークホルダーに価値を提供し、社会インフラとしての使命を果たしながら、持続的な成長を生み出しています。



インフラ資本

日本の東西交通を担う高速道路網

- 東名阪エリアをつなぐ重交通路線
- 暮らしを豊かにする高速道路網
- 新東名・新名神をはじめとするリダンダンシー

高速道路営業延長	サービスエリア数
2,208km	206カ所



知的資本

技術革新と歩んだ道路網の充実

- 革新的な技術を用いた新規ネットワーク整備のノウハウ
- 構造物の機能を維持・向上させる更新事業
- 老朽化への早期対応を可能とする点検技術の向上

新規開通延長 (NEXCO中日本設立後・累計)
559km



財務資本

確かな財務資本

- 高速道路空間の提供による料金収入
- サービスエリア事業を軸とする事業収益
- 更なるサービス向上のための資本投入

高速道路料金収入	サービスエリア事業収益
7,054億円	357億円



人的資本

圧倒的な現場力

- 安全を何よりも大切にする企業文化
- 24時間365日の現場力と危機管理体制
- 大規模災害時における迅速な緊急交通路の確保

グループ社員数
11,575名



社会・関係資本

地域社会と築いた関係性

- 地域社会の生活に欠かせない人流・物流機能
- 地域で暮らす皆さまとの継続的なコミュニケーション
- 社会と誠実に向き合う確かなガバナンス

高速道路年間利用台数
7億5,900万台

価値創造プロセス

当社グループのパーパスである「高速道路を通じて安全で安心・快適な社会を支える」という使命のもと、企業理念に基づく事業活動を通じて、ビジョンで掲げる「安全で安心・快適な高速道路」と「地域とともに歩む未来」を実現するための道筋を示すもの

人口減少
労働力不足

災害対応
レジリエンス

技術革新
デジタル化

人的資本

知的資本

インフラ資本

グループ社員数

NEXCO中日本設立後の
新規開通延長(累計)

高速道路営業延長

11,575名

559km

2,208km

安全で安心・快適を支える
技術力と経験

高速道路の建設・
維持管理ノウハウ

高速道路
ネットワークの活用

サービスエリア数

206カ所

当社を取り巻く
社会課題

投入する資本

地域共生
地方創生

気候変動
脱炭素化

規制強化
ガバナンス

社会・関係資本

財務資本

高速道路
年間利用台数

高速道路料金収入

7,5,900万台

7,054億円

ステークホルダーの
皆さまとの信頼関係

安定的な
高速道路料金収入

ビジネスモデル (社会的使命)

経営方針 → p.22

Safety

【経営方針1】安全性向上に向けた不断の
取組みの深化

Social

【経営方針2】安全・安心で利便性・快適性の高い
高速道路空間の提供

【経営方針3】お客さまや地域、社会の課題・
ニーズに応える新たな価値創造

Environment

【経営方針4】脱炭素化をはじめとする
環境保全への貢献

Governance

【経営方針5】エンゲージメントの向上

【経営方針6】持続的成長を支える経営基盤の強化

重要課題

安全

社会インフラとしての
信頼性向上

信頼

ステークホルダーとの
信頼関係

技術

技術革新による
価値創造

地域

地域との共創による
価値創造

環境

環境負荷軽減と
持続可能への貢献

収益

持続可能な事業運営と
財務健全性

Purpose パーパス

高速道路を通じて安全で安心・快適な社会を支える

企業理念・私たちの役割

私たちの6つの基本姿勢

私たちは、安全を何よりも優先し、安心・快適な高速道路空間を24時間365日お届けするとともに、高速道路ネットワークの効果を、次世代に繋がる新たな価値へ広げることにより、地域の活性化と暮らしの向上、日本の社会・経済の成長、世界の持続可能な発展に貢献し続けます。

私たちは、コミュニケーションを大切に、「6つの基本姿勢」の実践を通じて、ステークホルダーの皆さまの期待に応えます。

①お客さま起点で考える

②現場に立って考え行動する

③経験と知見を結集する

④生産性を高める

⑤変革を続ける

⑥社会の課題と向き合う

構造物の補修完了率 (健全性の診断区分Ⅲ)	100%
快適走行路面率	95%
通行止め時間 (災害・悪天候による)	15時間(1kmあたり)
死傷事故率	3.8件/億台km
逆走重大事故件数	0件
渋滞損失時間	1,368万台・時間
ETC専用化整備率	81%
休憩施設の混雑対策	実施率: 46%

お客さま

・安全で持続可能なインフラ基盤
・快適で円滑な移動
・多様なニーズに対応する高い利便性

地域・社会

・地域の活性化と暮らしの向上
・脱炭素・レジリエントな社会への貢献
・安定的な輸送・物流の確保

お取引先

・公正・透明な取引
・安全で働きやすい環境
・生産性向上を支える共通基盤

2030年度までの
達成目標

ステークホルダー
にお届けする
価値

企画割引販売件数

インフラソリューション売上高

CO₂削減率(2013年度比)

低炭素材料(低炭素アスファルト)の導入率

グループ社員の働きがい
意識調査値

男性育児休業取得率(2週間以上)

総合顧客満足度

SAPA事業連結営業利益

24万5,000件

100億円

50%

年間6%

3.78点

85%

3.8点

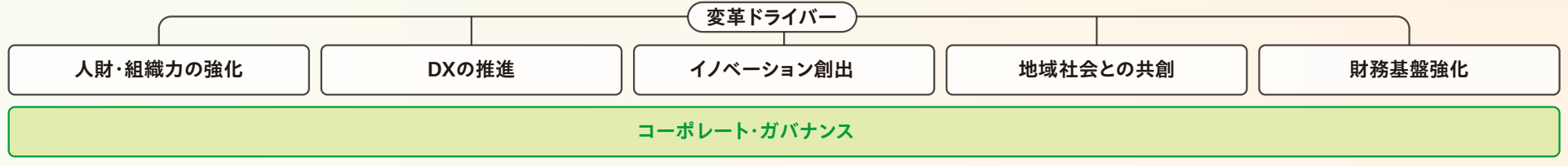
57億円

グループ社員

株主(国民)・投資家

・挑戦や成長が根付く働きがいの向上
・多様で柔軟な働き方の実現
・社員と家族の安全・健康・幸福

・財務健全性の確保と着実な債務返済
・企業価値の持続的向上
・適時適切な情報提供による信頼醸成



持続可能な社会の実現